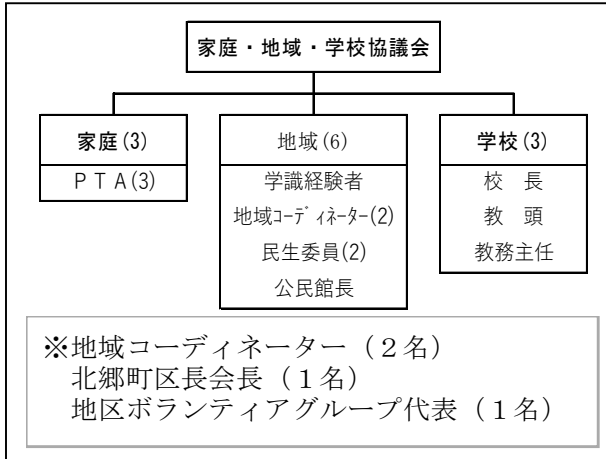


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- 7 / 4 ・本会の趣旨説明  
・1学期の学校の様子について  
・1学期の学校評価と保護者の声への対応について
- 2 / 20 ・2～3学期の学校の様子について  
・地域の特性を生かした特色ある学校づくりについて  
・家庭、地域、学校の連携に関する取り組みについて  
・学校評価について

### (3) 協議会における成果と課題

- ・1回目は、昼の時間帯に開催している。授業を見ていただいたあと子供たちと一緒に給食を食べていただき、それから懇談している。仕事をしている方には参加が難しいという問題もあるが、子供たちの様子がよく分かってよい、話を聞いているだけよりも実際に見られるのはよいという意見をいただいている。
- ・学校評価は、全体をまとめた資料も大切だが、個別にみていくことも必要だ。批判的にみるということではなく、読み聞かせ等で学校に来たときに、このクラスではこんな関わり方をしようと、参考にすることができる。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- ・体験活動を通して、ふるさとのよさを再発見し、地元を誇りに思う児童を育てる。
- ・地域の自然や文化に愛着を持って、進んで活動に取り組み、課題を解決する力とよりよく生きようとする態度を育てる。

### (2) 活動の実際

#### ①勝山のお宝探し (3年)

勝山のお宝として、校区を流れる九頭竜川を取り上げ、そこに住む鮎の生態について調べた。まず、漁協の協力を得て、坂東島区域で稚鮎の観察と放流体験を行った。一人一人が観察や放流を体験したことで、鮎について興味を持ち、さらに詳しく学習していきたいと意識が高まった。次に、県内水面センターを見学し、九頭竜川に住む鮎やサクラマス等の生態について学習し、威縄漁の見学・卵の観察・人工授精体験なども行った。

これらの活動をもとに、学習発表会で学んだことを全校に向けて発信した。さらに、地域の方を講師に招いて、伝統料理である「鮎の一本巻き寿司」作り体験を行い、年の市で販売の手伝いをした。



## ② 畝見川的环境保全活動（5年）

本校の5年生がこれまで継続してきた、校区を流れる畝見川に生育する県域準絶滅危惧種「バイカモ」を守り増やすための環境保全活動に今年度も継続して取り組んだ。

バイカモの観察や移植を行う際は自然保護センターから講師を招き、観察するポイントや移植の方法を教えていただいた。移植は、バイカモを守りさらに増やしていくために考えたもので、今後の活動にもつながっていくものとなった。



また、畝見川清掃では保護者や地域の方にも協力を依頼し、3名の方が参加してくださった。川に入るのが初めての児童も多くいる中、保護者の方が歩き方やごみの効率的なとり方を教えてくださった。

児童は、自分たちの学びをリーフレットにまとめたり、学習発表会で伝えたりして、畝見川の環境を守ることの大切さを地域に発信した。

## （3）地域コーディネーターの活動概要

地域との連絡・調整、ボランティアグループとの連絡・調整、活動内容への助言、活動内容の提案、活動の際の補助

## （4）特に工夫した事項

- ・地域に密着した題材を取り上げ、施設の見学や体験活動を充実させ、見学や体験の際には専門的知識や技能を持つ方に講師をお願いし、学びが深まるようにした。
- ・学習発表会等で、学びを他の学年の児童や保護者、地域の方々に発信するよう心掛けた。

## （5）成果と課題

- ・地域に密着した題材を取り上げ、見学や体験学習を多く取り入れたことで、児童の学習意欲が持続するとともに、地域の良さを再認識することができた。
- ・自分たちの学びを学習発表会等で、他の学年の児童や保護者、地域の方々に発信することで、自分たちの学びを再確認できた児童が多かった。
- ・見学や体験学習を校外で行う際のバスの借上げ料をどのように確保していくかが来年度以降の課題になると考えられる。